

都 市 消 防 委 員 会
説 明 資 料

平成31年 3 月 11 日

住 宅 都 市 局

目 次

	頁
1 自動車専用道路におけるランプ整備の事例について	1
2 港北エリアまちづくり検討調査について	2
(1) 検討調査の対象範囲及び主な地域資源	2
(2) 趣旨及び内容	2
3 都心における駐車場のあり方検討調査について	6
(1) 検討の必要性	6
(2) 駐車施策における課題	6
(3) 調査の目的	6
4 リニア中央新幹線開業に向けたまちづくりの推進について	7
(1) 事業規模に見込む主な取組	7
ア 名古屋駅周辺まちづくりの推進	7
イ 名古屋駅ターミナル機能の強化	7
(2) 位置図	7
(3) 予算内訳	8
ア 名古屋駅周辺まちづくりの推進	8
イ 名古屋駅ターミナル機能の強化	8
5 リニア関連名古屋駅周辺地区まちづくり基金の設置について	9
(1) 設置目的	9
(2) 対象となる事業の考え方	9
(3) リニア中央新幹線名古屋駅上部空間及び新明小学校跡地（西側）の位置図	9
6 平成30年度の地下鉄新駅設置可能性検討の状況について	10
(1) 目的及び内容	10
(2) 位置図	10
(3) 駅のレイアウトの検討状況	11
ア 概要	11
イ レイアウト図	12
7 金山駅周辺まちづくりの推進について	13
(1) 概要	13
(2) 市有地開発の想定スケジュール	13
(3) 金山南ビルインターコモン等の活用について	14
ア 活用部分	14
イ 平成30年度の活用実績	14

8	中川運河水上交通定期運航のモニタリング調査について	15
	(1) 概要	15
	(2) 定期運航の内容	15
	(3) モニタリング調査の内容	15
9	堀川における水上交通の活性化検討について	16
	(1) 試験運航の概要	16
	(2) 乗船実績	16
	(3) アンケート結果	16
10	中志段味特定土地区画整理事業の再建計画骨子について	17
	(1) 概要	17
	(2) 事業収支の試算条件	17
	(3) 事業収支の試算結果	17
	ア 支出	17
	イ 収入	17
11	名古屋駅周辺地下公共空間整備について	18
	(1) 平成29年度までの決算額	18
	(2) 概算整備費	18
12	国際展示場歩行者デッキの整備について	19
	(1) 内訳	19
	(2) 債務負担行為の内訳	19
	(3) 位置図	20
	(4) スケジュール	20
13	オアシス21における公園及びバスターミナルの指定管理について	21
	(1) 指定管理料の内訳	21
	(2) 断面イメージ図	21
14	市営住宅の募集状況について	22
	(1) 一般募集及び福祉向募集の募集戸数・応募者数・応募倍率の推移	22
	ア 一般募集	22
	イ 福祉向募集	22
	(2) 先着順募集の区別募集戸数	23
15	民間建築物の耐震化等について	24
	(1) 住宅の耐震化率（平成27年度推計値）	24
	(2) 実績の推移	24
16	民間ブロック塀等撤去助成の区別の件数について	25

1 自動車専用道路におけるランプ整備の事例について

事業箇所	守山スマートインターチェンジ（東名高速道路）
全体事業費	約61億円
事業規模	整備延長：約0.4km

(注) 全体事業費は、平成28年度守山スマートIC地区協議会において承認されたもの。

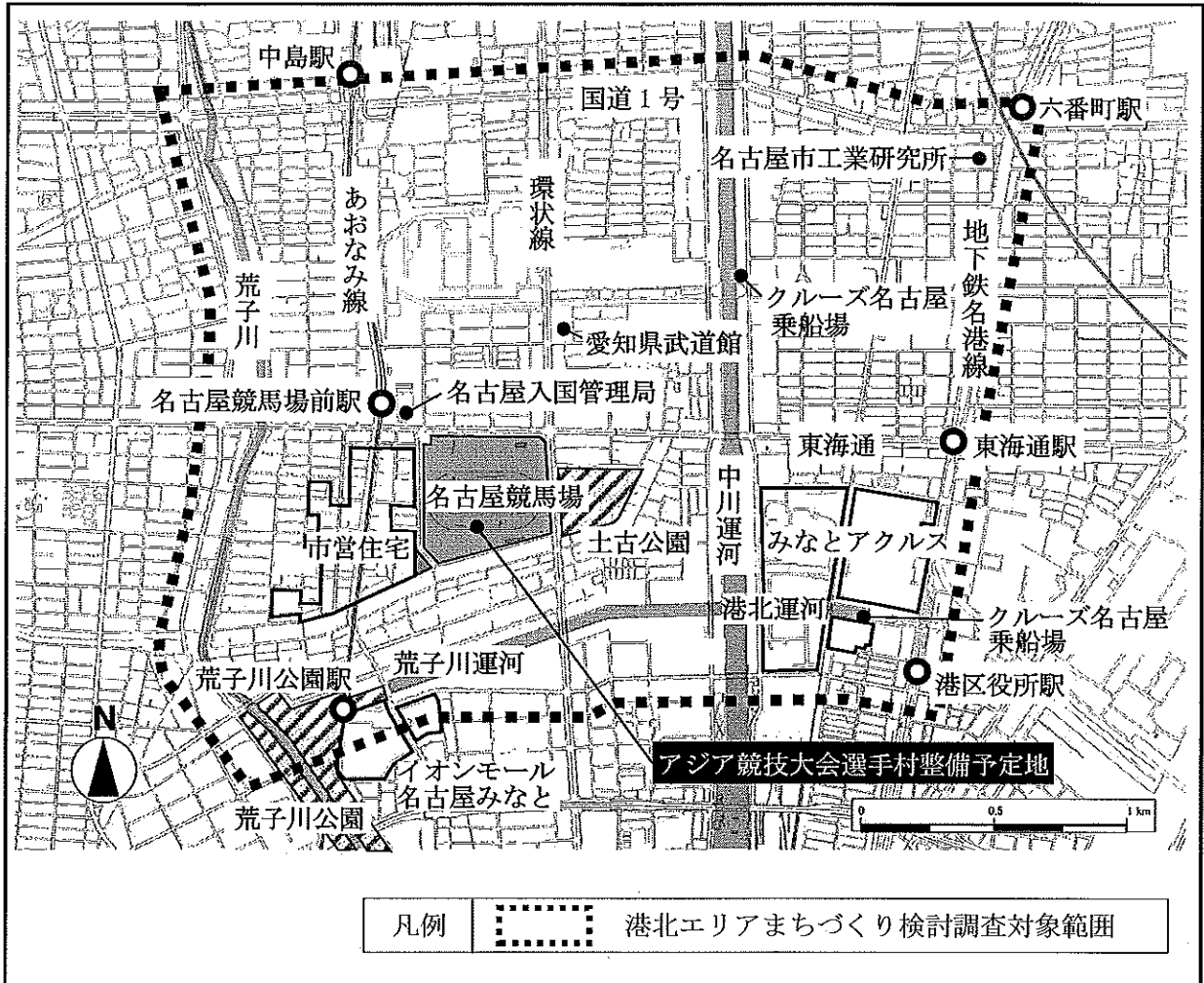
(参考) 自動車専用道路におけるランプ整備の事例について（名古屋市以外）

事業箇所	西知多道路〔東海ジャンクション〕（国道247号）
全体事業費	約285億円
事業規模	整備延長：約2.0km

(注) 全体事業費は、平成31年度政府予算案における事業計画（予定）による。

2 港北エリアまちづくり検討調査について

(1) 検討調査の対象範囲及び主な地域資源



(2) 趣旨及び内容

趣旨	<p>2026年開催予定のアジア競技大会の選手村整備予定地とされている名古屋競馬場を含む港北エリアにおいて、選手村整備事業と連携したまちづくりを推進するため、まちづくり将来ビジョンを取りまとめるとともに、その実現に向けた取組について具体的な検討を行う。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり将来ビジョンの検討 <p>選手村整備と大会後の後利用を見据えたうえで、まちづくりの方向性と重点的取組事項を整理し、港北エリアの将来ビジョンを取りまとめる。</p> ・民間投資促進方策の検討 <p>選手村整備事業への民間投資促進につながる名古屋競馬場周辺のまちづくりの取組について具体的な検討を行う。</p>

(参考) 選手村後利用基本構想有識者懇談会 (第1回) における主な意見

分野	内容
都市計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きなオープンスペースは都市にとって大切。徐々にまちの価値を形成し、高めるような戦略的な暫定利用ができる種地として活用することも一案。 ・ 用途地域の変更が想定され、周辺住民の理解も必要となる。 ・ 段階的な開発は途中で止まってしまう可能性があるため、全体を開発していく必要があるだろう。 ・ 若い人が交流できるような拠点の可能性を考えるべき。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺を含む災害対策の役割を担うことが期待される。住民、来訪者両方の安全性を向上させ、港区のイメージを変える必要がある。 ・ 当地は伊勢湾台風からも復興しており、同様に被災リスクを抱えるアジアの国にとっても災害対応のモデルとなることは重要。 ・ 防災の拠点として、事前の取り組み、発災時、応急、復旧・復興と時間軸で考えると、持つべき機能・役割が明確になる。 ・ 周辺は在宅避難となることも考えられ、避難者収容の拠点性だけでなく自宅に戻るために情報・物資・食糧・医療等の支援拠点の整備が必要となる。 ・ 防災の拠点として、十分なオープンスペースを確保することも方法のひとつとして考えられる。 ・ 防災対応の拠点とすることで、西南部のブランド価値を上げる取り組みにもなり得る。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通アクセスの改善が必要。例えば、名駅のあおなみ線の乗換利便性やあおなみ線の駅から競馬場跡地、また地下鉄の駅から競馬場跡地を結ぶ東海通の東西軸など。 ・ 東海通に東西軸を新たに構築することで、土地の利用価値を高めることが出来る。 ・ 新たな交通手段を入れるとブランド力が高まる。大会で近未来交通機関について、パーソナルモビリティの実証実験を行い、この地からアジアへ発信する。 ・ 運河、舟運などの水辺空間も育てたい。魅力的な場づくりで夢のある、新たなライフスタイルを実現したい。
建築・都市景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20haものかなり広い敷地で、都市として重要なオープンスペースである。全てを一度に恒久建築で開発するのではなく、例えば戦略的な暫定利用が可能となるオープンスペースを確保して、臨機応変にまちの価値を高めていくような使い方をすることもありえる。 ・ 名古屋はデザイン都市と宣言して30年、ユネスコのクリエイティブ・デザインシティに認定されて10年経っているが、最近は見立った動きがないため、コンペを実施するなどして多方面から知恵を募り、建築や関連分野のデザインがもつ可能性を市民、県民そして国内外に発信、共有する機会にすべき。

健康・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 多世代、プロ、アマなど様々な人が、様々な種類の運動が出来る場所にすべき。eスポーツ、超人スポーツの導入もある。 ボールパークなど、住んで、訪れて、楽しい場所にして欲しい。魅力のあるデザインなどにより、東京や世界にない特徴ある地域を作れると良い。
地域経済・産業	<ul style="list-style-type: none"> 県内製造業はA Iで代替不可能な雇用が多く、労働力不足は県の産業構造上深刻である。外国人労働者の教育施設等の環境整備は重要となる。 大会で使用した施設は、今後の増加が見込まれる外国人世帯を支援する教育や医療等の拠点へとして転用できるのではないか。 リニア開業を見据え、訪日客や首都圏とのつながりも考えながら、港区の土地としてあるべき姿を模索していく必要がある。 産業空洞化の危機感を持ち、観光やものづくりイノベーション・スタートアップへの貢献でまちに元気を。 千葉県で高層マンションや大型商業施設の横に物流施設が立地している事例がある。ドローンの実証実験を兼ねるような物流施設はどうか。 足元の需要ではなく、10年後の産業構造も考えながら、中長期的に検討すべき。若い人が集まる交流拠点に。 I C Tの活用など、次世代型の技術をまちづくりへ取り込むことも考えていくべき。
エリアマネジメント 都市・地域経営	<ul style="list-style-type: none"> コンセプトを整えないと民間のバラバラの開発になる。 先導施設はアリーナのようなものも一案であるが、施設でなくオープンスペースでも良い。通常時は健康・スポーツの、災害時はその拠点として使う。防災拠点の整備は核になる。 公的機能としての防災機能と収益事業の新しい導入機能の組み合わせは工夫できる。公的セクターがどんなメッセージを出すのが大事である。官民一体で新しい生活等を打ち出す開発を。 中川運河のイノベーションリンクと連携し、地場産業と結びつきながらエリアのイメージを変える取組みが必要である。 名古屋都心部等と違い、地域の不動産市場から民間による積極的な投資は期待できないのではないか。県・市から何らかの強い打ち出しにより民間を牽引するような公的関与が期待される。あわせて、行政施策との連携等による民間への支援方策の提示等公的セクターの関与が大事。 大会レガシーになることもあり、公共側による特色ある公園等の公共空間の整備と、整備後の公共空間の活用方策の検討も必要。県・市が積極的に関与しながら民間や市民を巻き込むことが重要となる。

選手村について	<ul style="list-style-type: none"> 選手は与えられた環境でベストを尽くすので、選手村施設は華美である必要はなく仮設でも良い。但し、食べる、寝るといった部分はしっかりして欲しい。 選手村の仮設施設は、作って壊して終わりではなく、転用可能なユニットの開発についてコンペでアイデアを募り、また会期終了後の受け入れ先も募集するなどして、誰もが使いたいというデザインを愛知・名古屋から発信すべき。 海外に比べ日本はボランティアに関心が低い。ボランティア文化の浸透に加え、海外選手が日本に対し良いイメージを持ち、情報発信してもらえると良い。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> キーワードは、「外国人」、「スポーツ」、「防災+新しい産業や暮らし方+周辺のインフラ活用」。 大会後に、海外の選手等がもう一度来たいと思える場所づくりが大事となる。 国際的に学べる場などとして、大会後も世界・アジアに開かれ交流できる場所が必要。子供たちに夢を与えられる場が欲しい。 外国人居住への取組みや外国人の就労支援のための場の提供を検討することも考えられるのではないか。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 第2回に向けて、様々な意見を代替案として整理し、「民間の市場ポテンシャル」、「行政の財政投入可能性」、「地域住民の理解」、「SDGs」などの軸で評価をしていく必要がある。 代替案の作成に向けては、「地域の産業、労働、高齢化など社会的な課題へのアプローチ」、「アジア大会のレガシーの引き継ぎ」、「敷地全体の一体的、戦略的なマネジメント」、「笹島と金城ふ頭の間地点としてのつながり」といったことがヒントになる。 また、多様な意見を総括すると、前提条件は「防災面の配慮」、民間需要が弱いため「先導施設の必要性」、方向性は「大会レガシー」、「国際性」、「産業の人手不足」や「高齢化等の課題」、「名駅でのリニア開業のポテンシャルを活かした開発」など、事業スキームは「暫定利用等の段階計画」や「大会の前・期間中・後を配慮した開発」となる。 これら前提条件に加え、県市の財政投入の有無・大小により後利用の方向性が定まる。 現状、地域ブランドが低く、地価も安いですが、先導施設への投資で市場価値を向上出来れば、資金回収できる。

備考 本市ウェブサイト掲載資料より引用

3 都心における駐車場のあり方検討調査について

(1) 検討の必要性

- ・ これまでの駐車施策は、増加する駐車需要に対して駐車場の量を確保することを目的に進めてきた。
- ・ 平成27年度に実施した駐車場実態調査では供給量が需要量を上回っており、都心部では十分な駐車場が整備されている。
- ・ 一方で、歩いて楽しいまちづくりが進められるとともに、移動に対するニーズが多様化する中、駐車場の役割も変化しつつあり、これまでの量的確保からの施策転換を図る必要がある。

(2) 駐車施策における課題

地 区	まちづくりの現状	課 題
名 駅	リニア開業を見据えて乗換空間や駅前広場等の再整備が進められている。	・ スーパーターミナルとしての総合交通結節機能の強化に向け、再整備と併せて駅付近の都市計画駐車場の活用等による交通結節機能の向上を図る必要がある。
栄・大須	久屋大通南エリアにおけるにぎわい創出に向けた再生の検討が進められている。	・ 南エリアの再生に併せて市営久屋駐車場の多機能化等を図る必要がある。 ・ 歩いて楽しいまちを実現するため、自動車の過度な流入を抑える必要がある。
金 山	金山駅周辺まちづくり構想に基づく面的なまちづくりが進められている。	・ 新たなまちづくりに併せて駐車機能の適切な再配置について検討する必要がある。

(3) 調査の目的

- ・ 安全・快適な交通環境の実現を図るため、市営駐車場をはじめとした都市計画駐車場の今後のあり方や量と配置の適正化について検討を行う。
- ・ にぎわいあるまちづくりとの連携を図るため、乗換拠点としての利用やにぎわい空間への一部転換等、他の移動手段やまちとの結節機能の強化に向けて検討を行う。

4 リニア中央新幹線開業に向けたまちづくりの推進について

(1) 事業規模に見込む主な取組

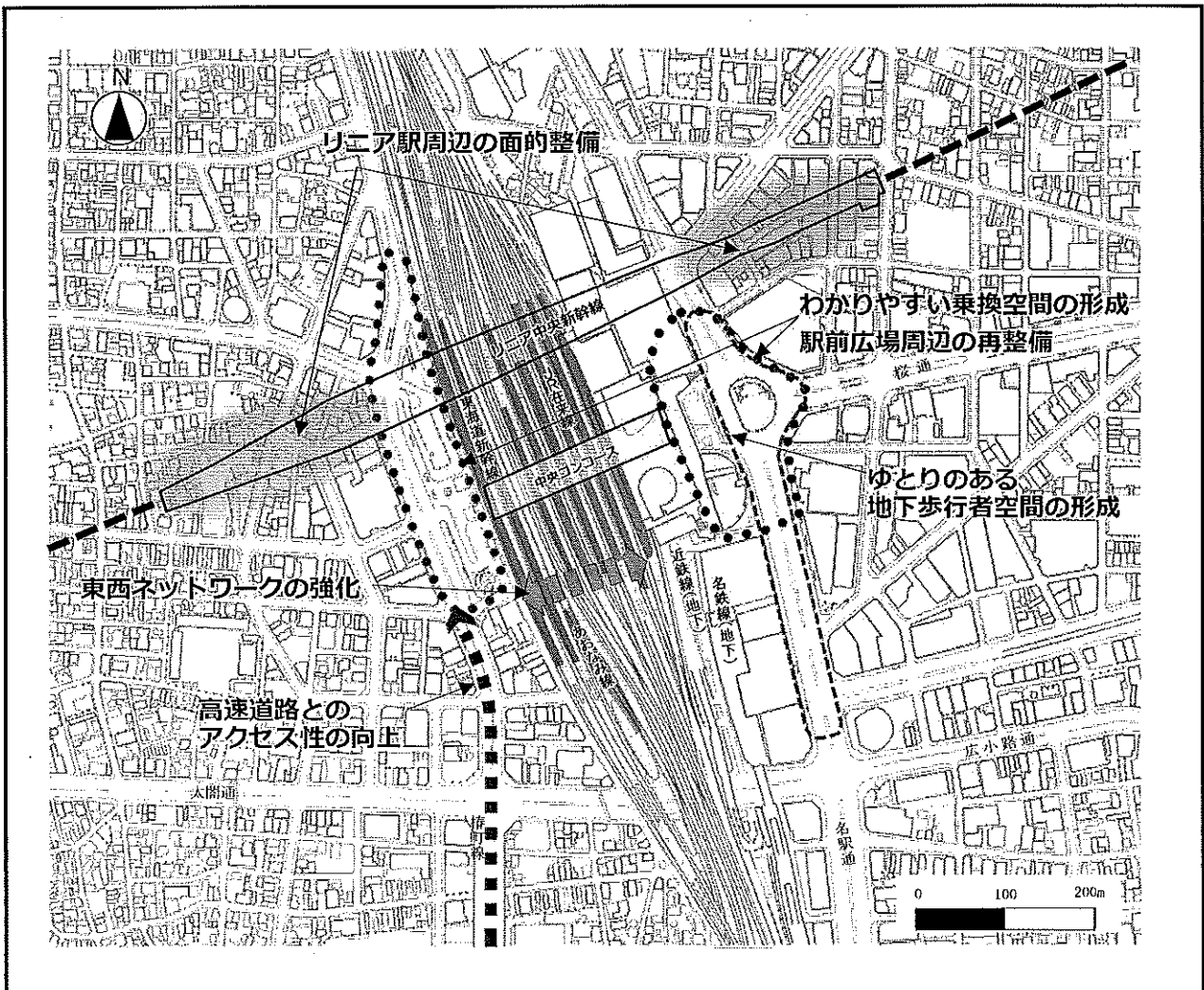
ア 名古屋駅周辺まちづくりの推進

・リニア駅周辺の面的整備

イ 名古屋駅ターミナル機能の強化

- ・わかりやすい乗換空間の形成
- ・駅前広場周辺の再整備
- ・ゆとりのある地下歩行者空間の形成
- ・東西ネットワークの強化
- ・高速道路とのアクセス性の向上

(2) 位置図



(3) 予算内訳

ア 名古屋駅周辺まちづくりの推進

事 項		金 額
		千円
リニア駅周辺の面的整備の検討		18,000
合 計		18,000
財源内訳	国庫支出金	9,000
	一般財源	9,000

イ 名古屋駅ターミナル機能の強化

事 項		金 額
		千円
わかりやすい乗換空間の形成の検討 駅前広場周辺の再整備の検討等	東 側	213,000
	西 側	103,000
ゆとりのある地下歩行者空間の形成の検討		110,000
東西ネットワークの強化の検討		75,000
合 計		501,000
財源内訳	国庫支出金	231,500
	県支出金	43,666
	一般財源	225,834

5 リニア関連名古屋駅周辺地区まちづくり基金の設置について

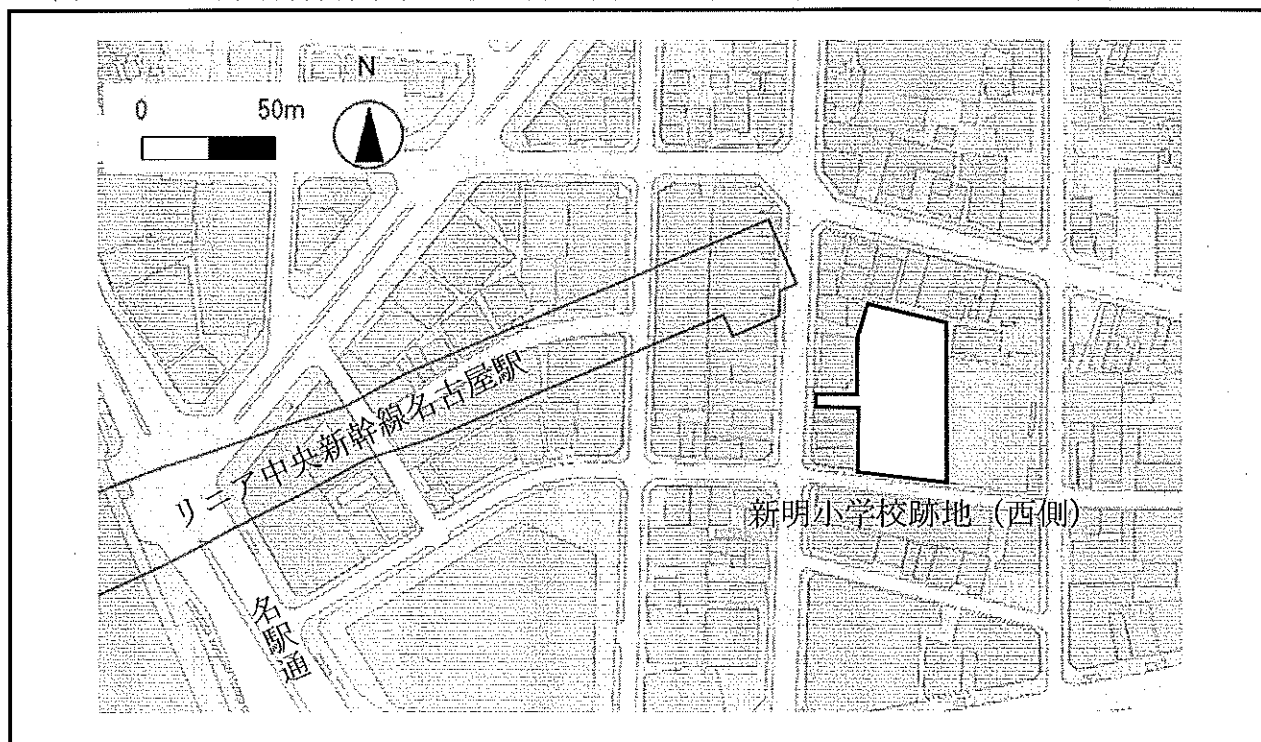
(1) 設置目的

- ・世界の主要都市としてふさわしい都心機能・交流機能を高めるため、リニア中央新幹線開業に向けたまちづくりを推進
- ・今後、着実に事業を進めるための財源として活用するため、基金を設置

(2) 対象となる事業の考え方

- ・リニア中央新幹線の開業に関連する名古屋駅周辺地区のまちづくりの推進及び名古屋駅のターミナル機能の強化に係る事業

(3) リニア中央新幹線名古屋駅上部空間及び新明小学校跡地（西側）の位置図

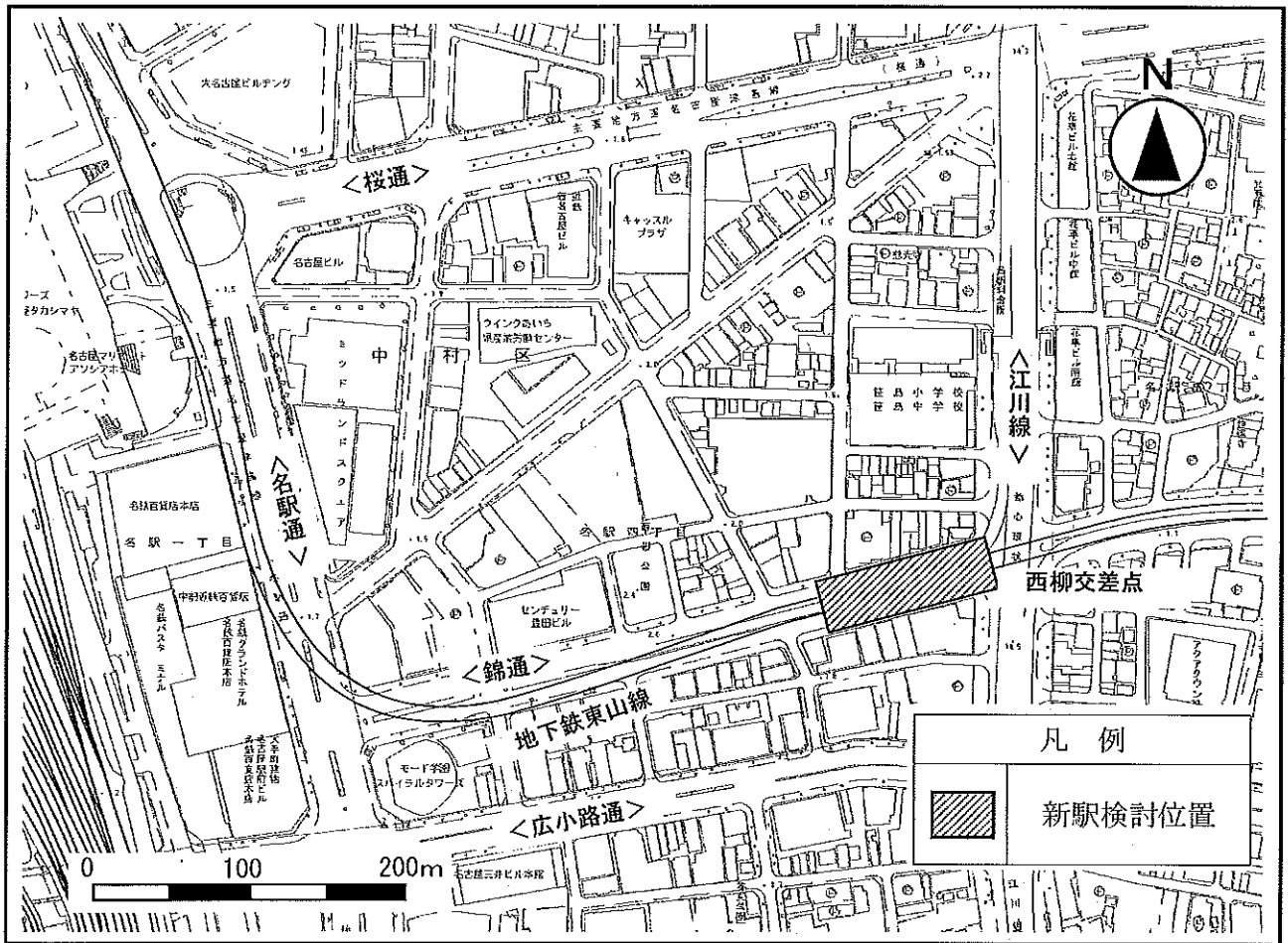


6 平成30年度の地下鉄新駅設置可能性検討の状況について

(1) 目的及び内容

<p>目 的</p>	<p>まちづくりの一環として、民間活力による新駅設置の可能性を検討するもの</p>
<p>内 容</p>	<p>駅のレイアウト、工法、概算整備費、整備期間等</p>

(2) 位置図

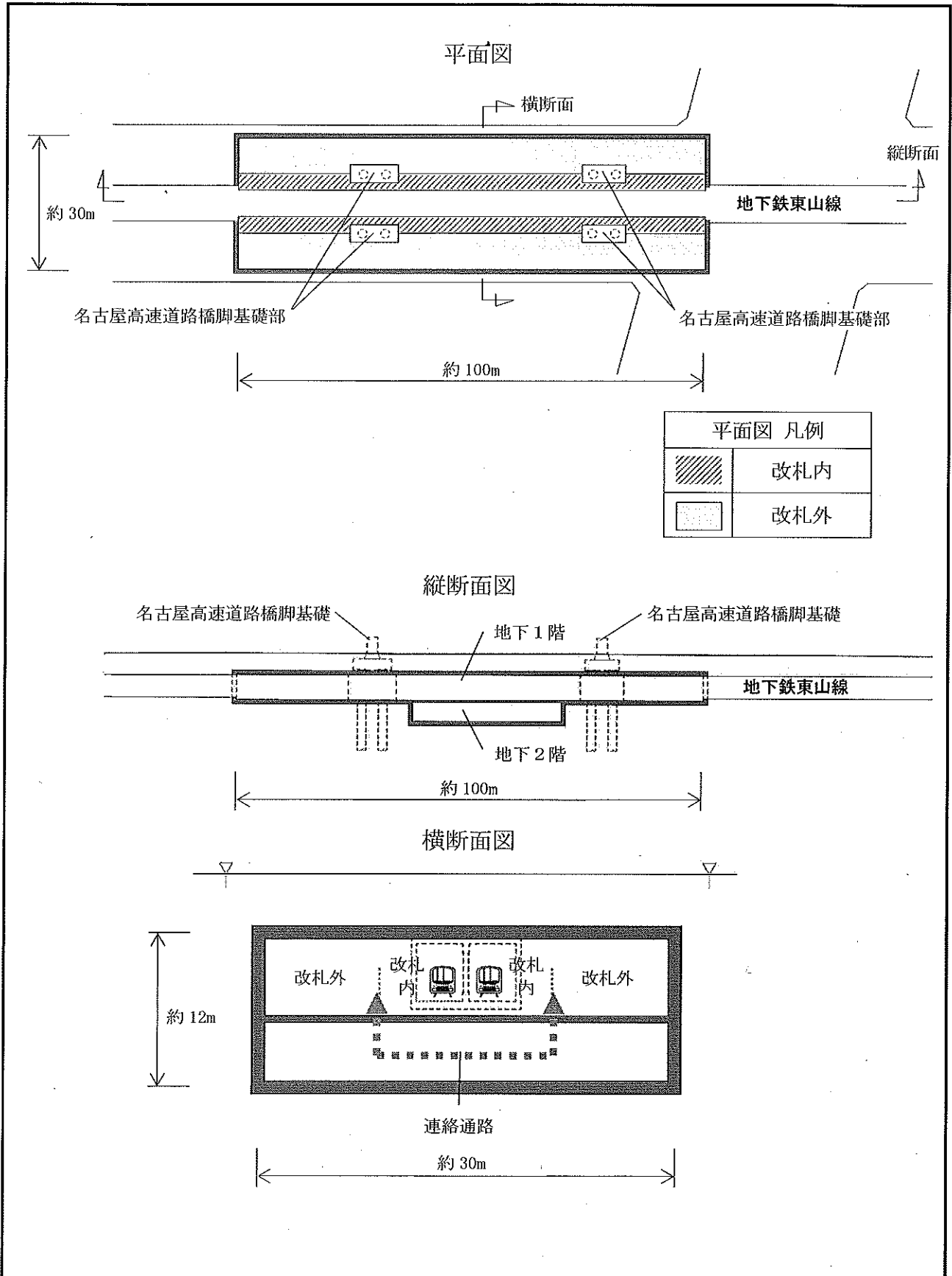


(3) 駅のレイアウトの検討状況

ア 概要

項 目	内 容
ホ ー ム	相対式2面
改 札	2箇所（上り方面及び下り方面のホーム外側にそれぞれ1箇所）
出 入 口	2箇所（錦通の北側と南側にそれぞれ1箇所、民間敷地を想定）、ホーム・改札階（地下1階）に接続
連絡通路	上り方面・下り方面の往来は改札内・外それぞれの連絡通路（地下2階）を經由
類 似 駅	新栄町駅

イ レイアウト図



備考 出入口の設置は民間敷地を想定

7 金山駅周辺まちづくりの推進について

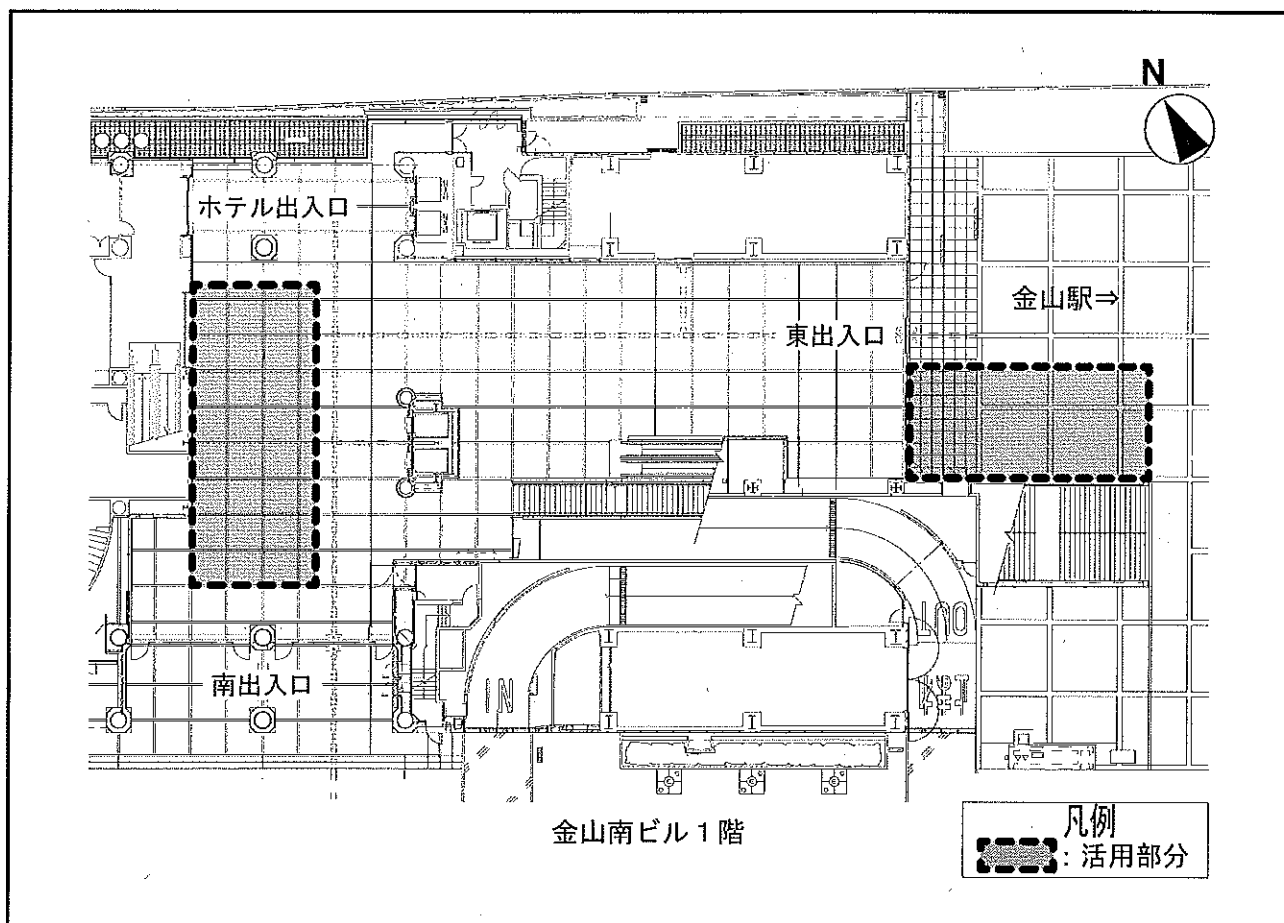
(1) 概要

目的	金山駅周辺まちづくり構想の実現に向け、主な市有地の開発を核とする地区の整備計画の検討及びエリア防災計画の策定に向けた検討を行うもの	
内容	金山地区開発検討調査	<ul style="list-style-type: none"> ・地区整備計画の検討 ・事業者公募に向けた検討
	エリア防災計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案の作成
金額	5,000千円	

(2) 市有地開発の想定スケジュール

平成32年度～平成33年度	都市計画変更協議・手続 公募要項の作成、事業者公募
平成34年度～	古沢公園街区・市民会館街区の整備
平成40年度～	アスナル金山街区の整備

(3) 金山南ビルインターコモン等の活用について
ア 活用部分



イ 平成30年度の活用実績

日 数	主 な 内 容
134日	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋ポストン美術館 展覧会ポスター展示 ・おえかきコンテスト ・いいカナ♡フェスタ ・移植を受けた子供たちの作品展 ・いけばな展 ・「鉄道の日」記念イベント ・伊勢山中学校吹奏楽部演奏会

備考 平成31年2月28日現在

8 中川運河水上交通定期運航のモニタリング調査について

(1) 概要

予 算 額	69,033千円
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・みなとエリアの拠点である金城ふ頭・ガーデンふ頭ど、都心部の拠点であるささしまライブ24地区を結ぶことで、みなと・都心間や各拠点間の回遊性を高め、みなとエリア全体の魅力向上を図ること ・将来の民間事業者による自主運航を実現するために、モニタリング調査を実施し、課題を抽出するとともに、対応方策を検討すること

(2) 定期運航の内容

運 航 期 間	平成31年4月1日～平成31年9月30日（予定）
運 航 日	土曜日、日曜日、祝休日、学校休業日
運航事業者	東山ガーデン株式会社 （公募型プロポーザル方式にて選定）
ル ー ト	ささしまライブーキャナルリゾートーみなとアクルスーガーデンふ頭ー金城ふ頭 （ささしまライブ～金城ふ頭間：所要時間片道75～85分）
運 賃	ささしまライブーみなとアクルス 大人 600円、小人（小学生）300円 ささしまライブーガーデンふ頭 大人 900円、小人（小学生）450円 ささしまライブー金城ふ頭 大人1,500円、小人（小学生）750円 など

(3) モニタリング調査の内容

項 目	主 な 内 容
実 態 把 握	乗船実績の集計、利用者アンケートの実施
ダイヤ作成	乗船実績等を踏まえたダイヤ改定案の作成
課題の抽出	運航に伴い生じた課題の抽出、対応方策の検討

9 堀川における水上交通の活性化検討について

(1) 試験運航の概要

運航日	平成30年11月17日(土)、18日(日)、23日(金・祝)、24日(土)の4日間	
運航時間	10:00~17:40	
ル ー ト	小型船 (屋根なし、定員10人)	朝日橋—(五条橋)—納屋橋 (朝日橋~納屋橋間:所要時間片道35分)
	普通船 (屋根あり、定員20人)	納屋橋—白鳥—宮の渡し (納屋橋~宮の渡し間:所要時間片道40分)
ダイヤ	1時間間隔で運航(南行き7~8便、北行き7便)	
運賃	大人片道300円~1,000円、小人(小学生)は大人運賃の半額 障害者及びその介護者は5割引	

(注) 五条橋には潮の干満の関係で、17日・18日の午後のみ寄港

(2) 乗船実績

運航日	乗船者数		
	南行き	北行き	計
11月17日(土)	110人	103人	213人
11月18日(日)	145人	114人	259人
11月23日(金・祝)	137人	110人	247人
11月24日(土)	116人	84人	200人
合計	508人	411人	919人

(3) アンケート結果

配布数	919(全乗船者に配布)	回収数	621
回収率	67.6%		
主な集計結果	<ul style="list-style-type: none"> ・中高年層(40歳代以上)が8割強 ・市内からの利用が約8割 ・今回の運航を知った媒体は「広報なごや」が5割強 ・乗船自体を目的としていた方が6割弱 ・「乗継があっても2種類の船に乗ることができた方がいい」が6割強 ・「よかった」、「まあまあよかった」が9割強 		
主な感想・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・普段見ることができない景色を見ることができた。 ・水を身近に感じることができた。 ・川のゴミが目についた。 ・建物の裏ばかり見えて魅力に欠ける。 ・歴史や地域を語るなどの船内ガイドがつくとよい。 ・定員や便数が多いとよい。 		

10 中志段味特定土地区画整理事業の再建計画骨子について

(1) 概要

中志段味特定土地区画整理組合は、平成30年11月に再建計画骨子を取りまとめ、施行地区の見直し等を行うことを前提に、本市に事業再建に必要となる財政支援や人的支援を要請し、事業再建を図ることとした。

再建計画骨子には、事業再建の方向性、組合の自助努力、行政への支援要請内容、再建計画の推進方法、再建計画骨子の方向性を踏まえた事業収支（試算）等が記載されている。

(2) 事業収支の試算条件

- ・ 施行地区の見直しにより、現施行地区の約6割を区画整理継続地区とする。
- ・ 区画整理継続地区において、保留地を最大限確保する。
- ・ 支出には借入金に対する利子は含まない。

(3) 事業収支の試算結果

ア 支出

区 分	事業収支改善後の事業費	(参考) 現事業計画の最大想定値
	億円	億円
工事・補償・設計費用	約415	約690
事務費	約25	約50
負担金等	約60	約70
合 計	約500	約810

イ 収入

区 分	事業収支改善後の事業費	(参考) 現事業計画の最大想定値
	億円	億円
保留地処分金	約120	約210
公的資金等	約120	約170
不足金	約260	約430
合 計	約500	約810

11 名古屋駅周辺地下公共空間整備について

(1) 平成29年度までの決算額

年 度	決 算 額
平成22年度	5,594,400
平成23年度	48,607,200
平成24年度	42,986,400
平成25年度	58,876,650
平成26年度	4,154,850
平成27年度	—
平成28年度	33,202,200
平成29年度	16,975,680
合 計	210,397,380

(2) 概算整備費

約134億円

備考 平成24年度所管事務調査における地下公共空間の整備計画案による。

12 国際展示場歩行者デッキの整備について

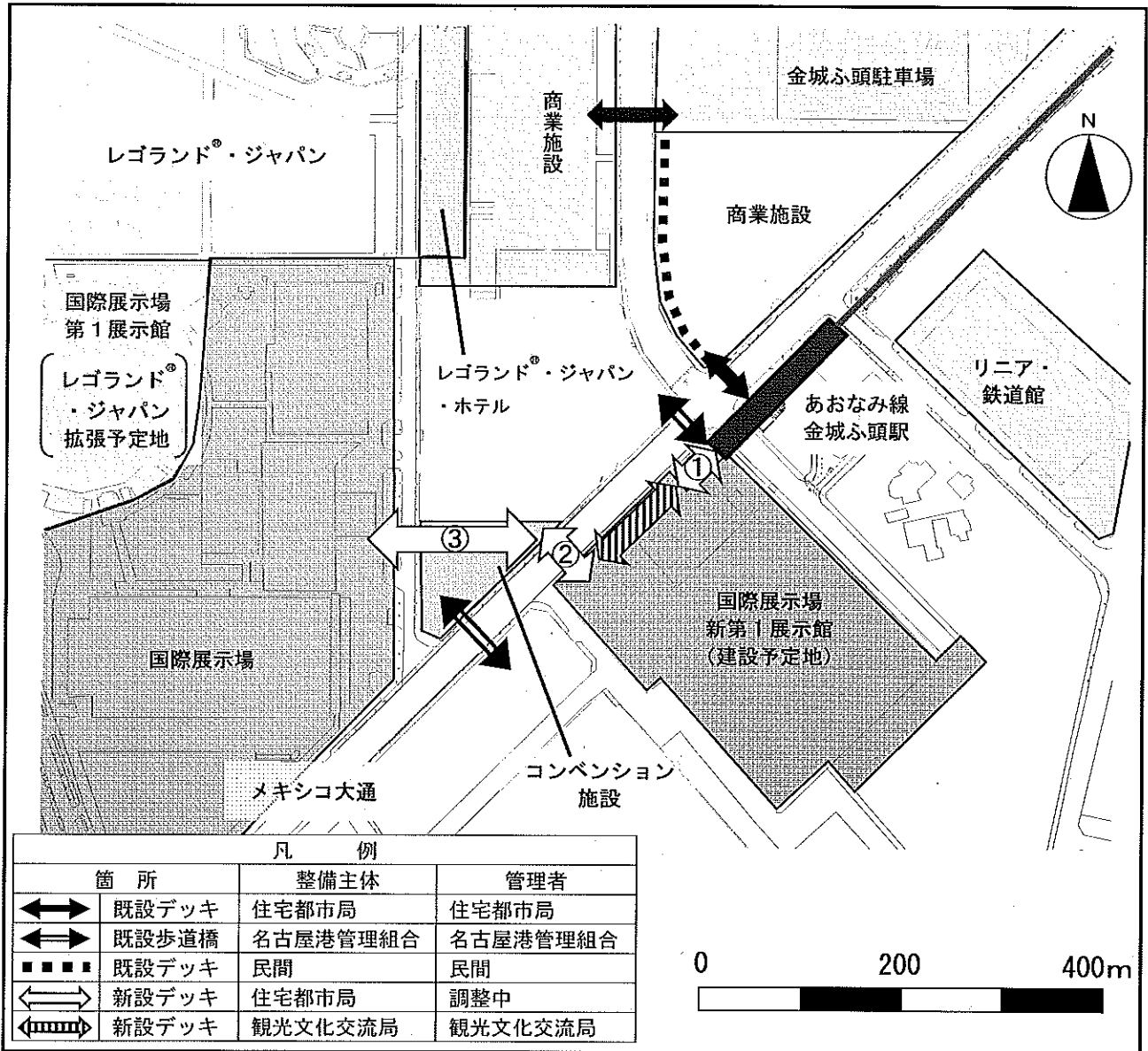
(1) 内訳

事 項	予 算 額
	千円
あおなみ線金城ふ頭駅高架下部の 基本・実施設計	45,400
メキシコ大通こ道部の実施設計	3,200
合 計	48,600

(2) 債務負担行為の内訳

事 項	限 度 額	期 間
	千円	
メキシコ大通こ道部の実施設計	19,000	平成32年度
コンベンション施設と一体構造部分の 実施設計及び整備	901,000	平成32年度から 平成34年度まで
合 計	920,000	—

(3) 位置図



(4) スケジュール

図面番号	箇所	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
①	あおなみ線金城ふ頭駅高架下部	設計	建設		供用開始
②	メキシコ大通こ道部	設計		建設	
③	コンベンション施設と一体構造部分	事業者公募・選定・契約	設計・建設		

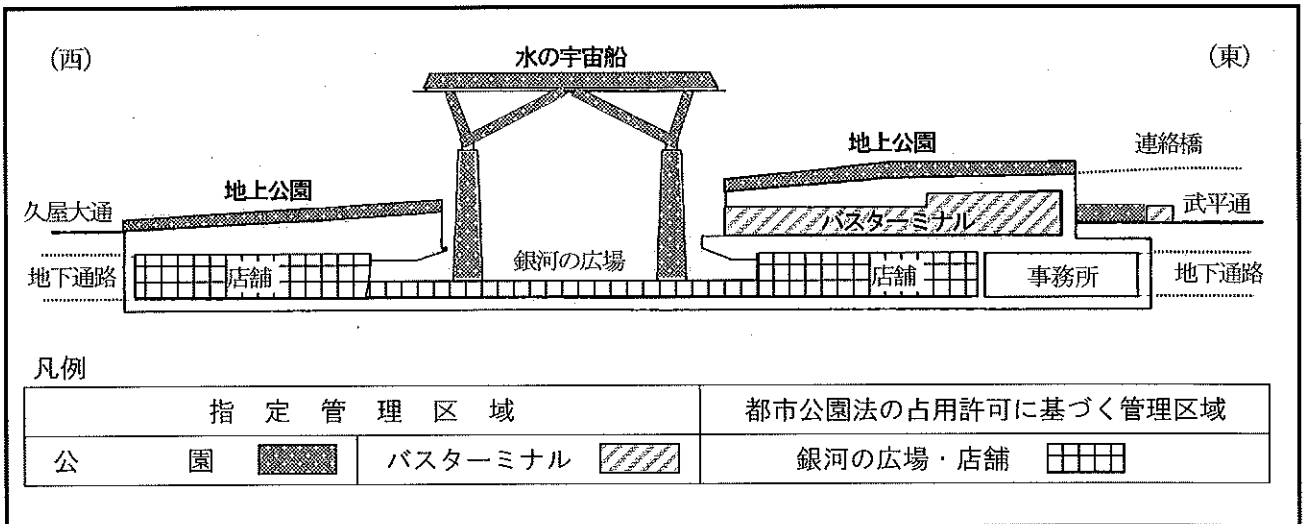
13 オアシス21における公園及びバスターミナルの指定管理について

(1) 指定管理料の内訳

事 項	予 算 額
公 園	79,598
バスターミナル	97,198
合 計	176,796

千円

(2) 断面イメージ図



14 市営住宅の募集状況について

(1) 一般募集及び福祉向募集の募集戸数・応募者数・応募倍率の推移

ア 一般募集

区 分	平成28年度			平成29年度		
	募集戸数	応募者数	応募倍率	募集戸数	応募者数	応募倍率
一般募集 全 体	戸 2,834	人 16,503	倍 5.8	戸 2,223	人 15,383	倍 6.9
うち 一般	1,399	7,242	5.2	1,011	6,222	6.2
うち 単身者	580	8,098	14.0	587	7,675	13.1

イ 福祉向募集

区 分	平成28年度			平成29年度		
	募集戸数	応募者数	応募倍率	募集戸数	応募者数	応募倍率
ひとり親	戸 60	人 278	倍 4.6	戸 57	人 282	倍 4.9
高 齢 者	248	1,938	7.8	237	1,645	6.9
障 害 者	122	888	7.3	116	663	5.7
合 計	430	3,104	7.2	410	2,590	6.3

(2) 先着順募集の区別募集戸数

区	戸数
千種	1
北	37
中村	1
中川	241
港	134
南	25
守山	46
緑	16
名東	26
天白	10
合計	537

備考1 平成29年度実績

2 表中に記載のない区は該当住宅なし

15 民間建築物の耐震化等について

(1) 住宅の耐震化率（平成27年度推計値）

種 別	耐 震 化 率
木 造 住 宅	73%
非木造住宅	96%
合 計	89%

備考 平成25年住宅・土地統計調査等をもとに推計し、平成28年度に名古屋市建築物耐震改修促進計画において公表したもの

(2) 実績の推移

事 項	平成29年度	平成30年度
民間木造住宅の無料耐震診断	507件	1,199件
民間木造住宅の耐震改修助成	改修 119戸 耐震シェルター等設置 14件	改修 103戸 耐震シェルター等設置 5件
民間非木造住宅の耐震診断助成	572戸	532戸
民間非木造住宅の耐震改修助成	設計 29戸 改修 232戸	設計 100戸 改修 39戸
民間ブロック塀等撤去助成	56件	552件
多数の者が利用する建築物の耐震診断助成	3件	5件
要緊急安全確認大規模建築物の耐震改修助成	設計 1件 改修 2件	改修 1件
要安全確認計画記載建築物の耐震改修助成	設計 3件 改修 6件	設計 6件 改修 3件
地域ぐるみ耐震化促進支援事業	14件	8件

(注) 平成30年度の実績は、平成31年1月31日現在

16 民間ブロック塀等撤去助成の区別の件数について

区	件数
千種	37
東	16
北	42
西	35
中村	46
中	5
昭和	30
瑞穂	28
熱田	13
中川	63
港	31
南	55
守山	49
緑	44
名東	31
天白	27
合計	552

備考 平成31年1月31日現在